りんごだより

2026年　11月号　草笛学園

１１月に入り、少しずつ山の木の葉が色づき、落ち葉が空を舞うようになりました。全国的にはインフルエンザも流行入りし、寒暖差に身体がびっくりして、風邪をひく子どもさんも多いようです。手洗いうがいをこまめにして、体調を整え、元気に冬を迎えたいですね。

手から考える子どもの育ち

ことばの「手間」をかけよう

「おなかがすきましたか？」「オムツを替えましょうね」「抱っこしてほしいのかな？」など、おとなは赤ちゃんにていねいなことばかけをします。ところが、少し大きくなってくると、「コレッ！」「ダメ！」「ちゃんとしなさい！」「ガンバレ！」と単語ですましてしまうことが多くなります。大きくなったからこそ、『ことばの手間』をかけてほしいのです。

三歳頃の子どもは、せっかく描いた絵を、上手にかけなかったと思って上からグチャグチャに塗りつぶしたり、家ではじょうずにおゆうぎして見せてくれるのに保育園ではまったくしないなど、おとなからすると「せっかくできるのに、ナンデ？」と思う事をします。

このころの子どもは、「大きい、小さい」「上手、下手」「できる、できない」など比べる気持ちが育ち、これまでのように「ほめられたらうれしい」というほど単純ではなくなります。つまり、「失敗したらどうしよう」とか「うまくできないから恥ずかしい」など、心が葛藤する時期なのです。

そんなときに、「みんな上手にしているのに」とか「こんどは失敗しないように」などとプレッシャーをかけると、それだけでも気持ちがしぼんでしまいます。葛藤しながらも、「でも、やってみよう」と思う気持ちを育てる、子どもの悩む気持ちに寄り添う「ことばかけ」が必要なのです。

たとえば、お友だちとブロック遊びをしていて、思うようにカッコイイ車がつくれない。友だちのまねをして作るけれどうまくいかず、作っては壊してイライラしている。そんな光景を見たとき、あなたならどうしますか？

おとなは親切心から、子どもに代って「こうして作るのよ！」とお手本を見せようとします。ところが、子どもは「自分でしたかった！」と泣いて怒ってしまいます。「だってあなたが作れないから手伝ってあげたのに」といっても、もう後の祭りです。

そんなときは、「うまくできないね、どうしたらできるかな？」と、子どもの気持ちをことばで支えます。そして、一緒に悩む姿勢を見せると、子どもは自分で納得できるところで「終わり」を作ります。

「悩みながら、自分を育てる」時期には、ていねいに『ことばの手間』をかけてあげましょう。

参考文献：今日から始める安心子育て『笑顔で向き合って』
池添　素　著

＜１２月のりんご教室について＞

・りんご①：１２月１日（火）　　活動：クリスマス製作

・りんご②：１２月１５日（火）　活動：クリスマス製作

★製作をするので、材料費として１００円いただきます。お釣りのいらないようご準備ください。

持ち物（①②とも同じです）・・・ハサミ、のり、シューズ、水筒、必要に応じて着替え

『参加される皆様へ』～ご協力お願いします～

・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください

・**参加費はいりません。**製作や、クッキングの活動の時には材料費として 100 円いただきます。必要時には『りんごだより』にてお知らせします。おつりのいらないよう、準備をお願いします。

・草笛学園遊戯室での活動となります。

・水分補給のため、お茶か水を用意して下さい（ジュース類は控えてください）。

・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください。

・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください。

